

令和4年度 第2回 学校運営協議会(定時制部会) 議事録

校名	大阪府立大手前高等学校
准校長名	杉田 真規子

開催日時	令和4年11月17日(木) 17:00~19:00
開催場所	大阪府立大手前高等学校 会議室
出席者(委員)	平野 智之、平田 和也、堀 剛士、寺村 美岐
出席者(学校)	杉田 真規子、矢野 直子、坂本 達也、川端 俊範、櫻井 俊介、山田 健太郎、石野 靖
傍聴者	
協議資料	令和5年度 教科書選定一覧及び選定理由書 令和4年度 第1回授業アンケート集計結果 スクールミッション(案)
備考	なし

議題等(次第順)

- 1 令和5年度 教科書選定について
- 2 第1回授業アンケート集計結果
- 3 授業見学
- 4 現在の本校の様子・取組み等
- 5 スクールミッションについて
- 4 その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

- 1 令和5年度 教科書選定について
「承認」
- 2 第1回授業アンケート集計結果及び分析結果の報告
 - (1) 本年度の上期は、すべての質問において過去最高値(3.5以上)
 - (2) 「授業に対する生徒の取り組み姿勢」「生徒による授業評価」「授業に関する生徒の意識」のすべての分野で肯定率が93%以上。
 - (3) 評価平均・肯定率が上昇した理由
 - ・小中学校で不登校だった生徒においては、学校に登校することで他者と繋がっていることへの安心感や自身の居場所が確保できたことで、自身のペースで学校へ安定的に登校できるようになったこと。

- ・高齢の生徒においては、諸事情により高校に通い、学ぶことができなかった環境等にあったが、学べることへの喜びを感じていること。
 - ・外国にルーツを持つ生徒においては、入学前から「大学進学」という明確な目標を掲げていること。
 - ・卒業予定生においては、社会に出ていくことや自立することをしっかりと意識し、行動できるようになっていること。
- (4) 生徒一人ひとりが成長する、変容する背景として考えられること
- ・誰一人取り残すことのない「わかりやすい授業づくり」をめざした教員の様々な工夫や校内努力による TT の実践、生徒が積極的に学ぼうとする仕掛けづくりに全教職員で取り組んでいること。
 - ・外部資源の有効活用していること。
 - ・様々な課題について教職員間で共有し、自身のこととしてとらえ、全教職員で向き合っていること。
- (5) 委員からの意見等
- ・学校の教育資源の最も大切なものは、教員の授業力であると思う。日々研鑽した結果がこのような数値に現れたものと思う。
 - ・どのような教育資源を活用し日本語指導を実施しているのか？
→非常勤講師が、外国籍生徒の日本語理解・国語力の向上のために、国語の授業時に抽出し別室にて日本語指導（週4回）を行っている。
 - ・今後も続けていくことが大事。
 - ・グラフから教員の努力を感じる。今後も続けていただきたい。
 - ・学び直しややり直しの生徒、高齢の方や外国ルーツを持つ生徒の意欲を一層伸ばし、満足感につながった所以は、教員全員が自分の課題として取り組んだことであり、教員の努力や授業改革があったからだと思う。
 - ・特徴的な教員の取り組みがあれば報告してほしい。
→すべての教科で毎時間の活用は難しいが、HR や行事の準備等も含めて教員が一人1台端末の活用を進めており、生徒も徐々に慣れ利用が進みつつある。
 - ・ICT の活用や生徒が自ら考える時間を取り入れることなどにより、3から7の項目（生徒の評価）のすべてにわたって高い数値（95%以上）が出ており、タブレットを使って自分で振り返ったり、考えたり、教員がその時間を与えたりするなど、生徒と対話することをおして学びに道筋をつけているように思う。このことにより、1・2の項目（生徒が自分でできていること）や8・9の項目（生徒が感じていること）のそれぞれが90%以上という高い数値につながったと思う。

3 授業見学

(1) 委員からの意見等

- ・授業はTTで行われていた。授業を見学して、生徒の満足度の高さがわかった。
- ・家庭科の授業での幼児向けの教具の作成が新鮮に感じた。作成した物を保育園に届けることはあるのか、または届けることを想定した授業をおこなっているのか？
→届けることはないが、そのような思いを込めて作成している。
- ・入学前に授業見学をしたことがあるが、改めて授業を拝見した。教室に教員が複数入り込んでおり、その中でフランクに会話ができていたことから、わかりやすい授業ができていると感じ、すごくよかった。
- ・教員が入り込んで親身になって接していたことや、ある授業では世代や立場が違う生徒の自己表現を大事にしており、授業を通して関係が結ばれ、相互理解が深まっているように感じた。また、ある授業では、より日常的なものを扱うことで興味関心を高めていたように思った。

4 現在の本校の様子・取組み等 および 5 スクールミッションについて

(1) 委員からの意見等

- ・「個に応じた支援体制」が一番求められるものであると思う。その結果、社会で自立していくということ、生徒像としてよく練られた案であると思う。
- ・保護者として、「社会の一員として自立」することを大事にしたい。それを方針にさせていただくことはいいことであると思う。
- ・「みんなの大手前、みんなが大手前」という言葉は抽象的であるがいい言葉だと思う。
- ・自立というのは個人個人が勝手に自立していくというよりは、いろんな対話を通じて求め合ったりつながり合ったりして、社会で生きていく生き方を見つけていくというところがあると思う。「現代社会で生き抜いていく」ということはサバイバル的で厳しいように聞こえるが、一方で協働していくとか、ある意味助け合っていくという面もある。一回間違っても一回失敗しても大丈夫だよというのが、「みんなの大手前」の意味するところなのかなという印象がすごくある。学校は方向性として、一人一人の力を伸ばして自立させていくということで日夜頑張っていると思う。自立という考えの中に多様性を認め合い、弱いところを投げ出しながら自分を回復させていくとか、そのようなプロセスも入っていると思う。このように、「みんなの大手前」や、「自己実現のサポート体制」も素晴らしいので、堂々と誇っても良いと思う。ミッションはミッションとして、教員も生徒も自分のことと思えるようになってほしいと思う。

次回の会議日程

日時	令和5年2月20日(月) 15:00~16:00(予定)
会場	大阪府立大手前高等学校 1階大会議室